



## 新年のごあいさつ

年頭に当たり本年の抱負を述べさせていただきます。

昭和38年5月の開院から50余年が経過しましたが、本院はこの数年大きく変貌しております。平成25年9月には、茨城県の県北地域における救急医療への取り組みが認められ、県内で最初の社会医療法人に認可されました。それを契機に、地域のために機能する施設である事を明らかにしようと、病院名をひたち医療センターに改称しました。また昭和大学の連携病院になり、従来は医師だけであった派遣を薬剤師、検査技師さらに事務職についても拡大し、スタッフの充実を図っております。また昨年4月には、長年の念願でありました新棟の建設が完成するとともに新しい機器を多数導入しました。そして本年3月末には、既存建物の改装と病棟周囲の整備が完了し、病院の建築計画の第一段階が終了いたします。即ち、近代的な建物の中で最新の機器を用いて、レベルが高く、安全な医療が提供できるようになります。

しかし、医療において最も重要なことは、病院の建物や設備ではなく、医療スタッフのレベルと患者さんに対する彼らの姿勢であります。従いまして、本年は院内におけるソフト面の充実を第一に考え、病院の運営に当たる所存であります。職員が患者さんや関係者の皆さんに対して適切で心がこもった対応ができるように致すには、まずはスタッフ教育を病院内外で積極的に行うとともに、職場環境の整備に努めなくてはなりません。保育所も24時間体制で運営するように計画しております。

我が国では、都市部と地方地域との格差があらゆる分野で年々拡大し、その中でも地方における医療スタッフの不足が深刻な問題になっています。茨城県県北では医師と看護師の不足は極めて深刻です。その上、4月からは保険診療における点数が改訂され、医療収益は減少する事が予測されています。

このように、医療を取り巻く環境はより一層厳しくなると考えられますが、昭和大学との連携を強化するとともに、職員の業務に対する意識を高めて此の難関に取り組み、地域医療の充実に取り組む所存です。

皆様方のご指導とご鞭撻をお願いいたします。

病院長 安本和正



〒316-8533 茨城県日立市鮎川町 2-8-16  
TEL0294-36-2551(代) Fax0294-35-7816  
URL <https://www.hitachi-mch.or.jp>  
発行：地域医療連携室

## 新年の抱負

### ひたち医療センターの申年生まれの年男・年女特集

#### 看護部

##### Sさん（S43年生まれ）

今までやってきた仕事とは異なる初めての世界に入り、新たな環境で病院のことを学んでいます。今年もさらにいろいろなことを吸収していきたいと思っています。

##### Wさん（H4年生まれ）

今年は国家試験に頑張っ合格して一生懸命に働きます。

##### Kさん（H4年生まれ）

今年で長かった5年間の学生生活もやっと終わり、卒業となります。さらに知識や技術の向上に努め、立派な看護師になれるよう頑張っていきたいです。

##### Tさん（H4年生まれ）

看護科2年生として、勉学に取り組み、ひたち医療センターの一職員として笑顔を忘れず一生懸命働いていきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

##### Oさん（H4年生まれ）

2016年の抱負は国家試験に受かって正看護師の資格をとること、1人の看護師として自立できるように頑張りたいと思います。

#### 放射線技術科

##### Sさん（S55年生まれ）

現在、私は自転車通勤をしております。いわゆるジテツウです。朝の渋滞に巻き込まれずに済むのもとても便利です。今年は気になりだしたお腹がへこむよう、長距離のツーリングにチャレンジしたいと思います。

##### Oさん（H4年生まれ）

仕事にもだいぶ慣れてきましたが、慣れてきたときこそミスが多くなるので気を引き締めて2年目も精進したいと思います。

#### リハビリテーション科

##### Tさん（S55年生まれ）

今年の4月で言語聴覚士として3年目を迎えます。担当する患者様との出会いを大切にして業務に励みたいと思います。

##### Tさん（H4年生まれ）

私の今年の新年の抱負は、日々の感謝の気持ちを忘れないことです。昨年は社会人としての新しい生活がスタートしました。この一年は文字通り怒涛のように過ぎていき、この一年を乗り越えられたのはいつも支えてくれた両親や温かくご指導してくれた先輩方や友人たち、そして未熟で至らない点が多い私にも笑顔をくださる患者様方。本当に多くの方々を支えられていることを改めて実感することができた一年でした。この感謝の気持ちを忘れず、しっかりと伝えていける一年にしたいと思います。

#### 地域医療連携室

#### 事務部

##### Oさん（S55年生まれ）

申年の今年、年男の私がこの病院を去ることもあるかもしれませんが、猿のごとく元気に動いて楽しい一年にしていきたいと思っています。

##### Kさん（H4年生まれ）

入社して3年目を迎える今年の後輩たちの手本になるような立場であるという事を自覚し、日々業務に励んでいきたいと思っています。

##### Aさん（S43年生まれ）

あけましておめでとうございます。昨年テーマは「わくわく大作戦」でしたが、今年のテーマは「ハッピー大作戦」です。今年、よく食べてよく飲んでよく寝て毎日が最高の仕事ができるよう日々精進していきたいと思います。

##### Sさん（S55年生まれ）

新病院になり、おかげ様で新しい制服、新たな環境の中で気持ちよく働かせていただいております。感謝の気持ちを忘れずに、自分のできることは何でも役に立てるよう、少しでも成長しながら明るく、元気に笑顔を絶やさず健やかな一年にしたいと思っています。

#### 施設課

##### Kさん（S55年生まれ）

新病院になり新しい設備が増えました。その新しい設備をまだ覚えきれていないので、それを覚えていき、新病院に必要な資格を取得していきたいです。

#### 薬剤科

##### Sさん（S55年生まれ）

年も体調に気を付けながら頑張りたいと思います。一つの節目の年であるため新しい事にチャレンジもしていきたいと思っています。

## リハビリテーション療法科よりお知らせ



☆写真は朝の体操の様子

当院のリハビリテーション科では、朝の体操として8時15分から10分程度外来待合で家庭でも簡単に出来る「膝痛予防体操」「腰痛予防体操」「五十肩予防体操」「転倒予防体操」の四つの体操を紹介しています。どなたでも参加できますので、受診の際はぜひご参加ください。

## 外来診療のご案内

		月	火	水	木	金	土
総合外来	午前	安本	安本	安本	安本	安本	小澤
内科	午前	関本 酒井 安藤	佐藤貴也 佐藤貴俊 (糖尿病) 九島	佐藤貴也 小澤 塚本 吉津	佐藤貴俊 小澤 近藤	関本 小澤	佐藤貴俊 川崎 辻田
		— 安藤	(糖尿病) 九島 —	— —	— —	— —	— —
	午後	— —	関本	佐藤貴也	佐藤貴俊	小澤	—
小児科*6	午前	—	—	—	高橋	—	—
	午後	—	—	—	高橋	—	—
胃腸科外科	午前	内田	内田	松井	内田・和田	吉澤	内田
胃腸科	午前	石原	三田村	石原	石原・松井	三田村	三田村
整形外科	午前	梶	梶・大澤	大澤	梶・大澤	梶・大澤	担当医師
形成外科	午前	原	—	門松	原	吉本	原
美容外科	午後	原	原	原	—	—	—
脳神経外科	午前	—	—	布施	—	—	安田
	午後	—	—	布施	—	—	—
神経内科	午前	—	—	—	—	—	渡邊 中馬越 富所
泌尿器科	午前	下山	—	森田	—	—	—
	午後	下山	—	森田	—	—	—
歯科	午前	秦	秦	秦	—	秦	秦
	午後	秦	秦	秦	—	秦	—
休診日		・日祝祭日 ・夏季休日(8月14日、15日) ・年末年始(12月30日~1月3日)					

## 検査科 lab ニュース



寒さが一段と厳しくなる時期となりました。皆さんインフルエンザ対策は大丈夫でしょうか？

日頃から手洗い、人込みではマスクの着用が大切です。今年は全国的にインフルエンザ流行が遅いようですが、すでにインフルエンザに罹ってしまった人は、他の人に感染さないためにもマスクをして咳エチケット、感染拡大防止に努めましょう。

インフルエンザ検査は患者さんより採取させていただく検体、通常は鼻腔ぬぐい液を用います。細長い綿棒を鼻の穴から挿入して鼻腔の奥深いところ(鼻甲介)を数回こすって採取します。検査判定時間は約 10 分、陽性の場合 A か B かの判定が同時に行われます。検査結果が陰性でもインフルエンザ感染症は否定できません。感染初期ではウイルス量が少ないため陰性となりやすいのです。感染して発熱後 8～24 時間で検査の陽性率が上がります。ここで一つポイントとなるのが、抗インフルエンザ薬使用時期との兼ね合いです。抗インフルエンザ薬の効果は、発熱後 24～48 時間以内が有効、48 時間を超えたら効果はあまり期待できないと言われています。その理由はウイルス増殖を抑える薬であり、ウイルスが最も増殖する 48～72 時間より早く服用すべき薬だからです。でも検査は早すぎてもダメですから、適正な検査時期と薬の服用開始時期が合わないといけません。そのため医師は総合的に患者さんを診察し処方を決めています。安心して受診して下さい。(文責 熊)

## 病気のお話し

### 『まぶたの病気、眼瞼下垂』 形成外科部長 原 裕太医師

眼瞼(まぶた)の不調によって目の疲れなどの眼症状が出てくることがあります。まぶたが垂れ下がってきて目をさえぎってしまうようになると視界が悪く見にくくなってしまいますが、これを眼瞼下垂症といいます。眼瞼下垂症の方は上がりにくいまぶたを頑張って上にあげて一日を過ごすため、夕方になると目が疲れて、そのせいで肩凝りや頭痛まで感じる方もいます。こういった目が疲れる、目が重い、というのが眼瞼下垂症の主な自覚症状です。

眼瞼下垂症の原因にはさまざまなものがあります。皮膚が垂れ下がってくるのが原因でなるもの、まぶたを引き上げる筋肉がゆるんでしまうものがほとんどですが、中には重症筋無力症といった病気が原因の方もいます。また先天性のものもあります。まぶたが下がってしまうと視野の上半分が特に見にくくなってしまいますので、生活上で不都合が生じたり、まぶたが下がっているで「目つきが変わった」と周りの方に言われて初めて気がつくこともあります。高齢の方がなることが多いですが、コンタクトレンズを長期に使用している方や、花粉症やアトピーなどでまぶたをよくこする方は年齢に関係無くなりやすいといわれています。症状を改善するためには、余分な皮膚を取ったり、場合によってはまぶたを上げる筋肉(眼瞼挙筋)を治す手術を行います。これをするると視界が広くなり目の疲れなどの症状の改善が期待できます。診断するには診察を受けるのが一番ですが、目が疲れる、重いなどを感じたらまずご自身で鏡でまぶたをよく観察してみるのもよいと思います。まぶたの皮膚がまつ毛を下に押しやるほどかぶさっている、昔より目の開きが狭く黒目に必要以上にかぶさっているなどが主な症状です。昔の写真があれば現在と比べてみるのもよい方法だと思います。